


会議録

会議の名称	令和4年度第5回文化振興審議会			
開催日時	令和4年12月19日(金) 開会時刻 午後5時30分 閉会時刻 午後7時30分			
開催場所	ふじみ野市役所A201			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	伊藤 裕夫	副会長	進藤美奈子
	委員	岡本 雄司	委員	遠山菜穂美
	委員	福田眞智子	委員	古田土勝市
	委員	尾澤 景子	委員	小林葉津子
	委員	田中 義則	委員	
会議の議題	(1) 第2期ふじみ野市文化振興計画素案について ①文化振興施策の修正点及び成果指標 ②施策体系 ③将来像 (2) その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	市民活動推進部 文化・スポーツ振興課			
議事の確定	確定年月日	令和4年12月28日		
	記名押印	役職名 会長 伊藤 裕夫 		

(会議の経過)

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
文化・スポーツ振興課長	最初ではありますが、次回答申の流れについて説明します。今回は1月13日(金)に予定しています。16時から開催し、17時半に市長への答申を行います。答申後は、市長を囲んで意見交換会を予定しています。
伊藤会長	最初に、12月17、18日に行われたアートフェスタについて、報告してください。
尾澤委員	会場が多く各場所との連携が取れるか心配でしたが、たくさんの方が参加してくれました。参加している方の顔を見ていると、楽しんでいただけたことを実感しました。文化祭的な要素が強めにでてしまい、アートフェスタのインパクトは少し弱まってしまったように感じました。いずれにしても、市民の方が体験して触れ合える場所となったのは良かったと思います。
小林委員	アートフェスタには子どもたちが大勢集まっていました。その日を過ぎてから、ああすれば良かったなどいろいろと出てきます。地域で声が上がったことが実現し、つながりや努力の中で、皆さんで楽しい時間を過ごすことができたと思います。
進藤副会長	動員や企画のどういうことに観点を置くのかなど、反省は多々ありますが、少しでもアートを感じてもらうことができました。次についても考えていきたいと思います。アートフェスタの会場にはみんな自転車で来ていました。この町に住んでいるので思いが沢山あります。私にできることは、協会をしっかり支え、アートフェスタを繋いでいくことと考えています。
事務局	市長からねぎらいの言葉をかけてもらいました。実行委員会の皆さんの力が結集した素晴らしい事業になったと思います。
事務局	配布資料は、次第、A4横の素案とイベントのチラシ。議事の進行は、ふじみ野市文化振興審議会条例に沿って、会長にお願いいたします。
伊藤会長	残すところ1回で答申をとりまとめます。実質的には、今日が最後となります。計画案がまとまってきており、修正等も入っています。今回の中心となる第4章にも修正が入ってきました。それぞれの成果目標に照らし合わせて、施策を考え、その後、第3章の将来像の議論をしたいと思います。漠然としている部分はありますが、具体的な施策を見て、将来像を固めていきたいと思います。時間に余裕があれば、市の役割や評価についても触れていきます。今日を中心となる第4章をまずはしつ

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局	<p>かり議論をしたいと思います。</p> <p>4月からお願いする指定管理者が確定しました。指定管理者の応募には4社あるなど、近隣では川越市のウエスタ川越を運営している事業者など、複数の施設を経験しています。ウエスタ川越では幅広い取組みをしています。</p>
伊藤会長	<p>指定管理者を決めるにあたり、ベストな事業者はありませんでした。一番総合点数の高いところで、川越市でやっている経験も大きいと思います。文化の面ではあまり高くないが、今後協議をして、市民の文化等を支える活動などもしてもらいたい。安心して運営してくれるだろうという前提の下で、指定管理者を決めました。</p>
事務局	<p>素案には前回からの修正を加えています。わかりづらい、難しい語句には注釈をつけました。</p>
伊藤会長	<p>第4章を中心に、課題を解決できるよう、成果指標、修正個所に対する意見をだしていただきたい。第4章1に図書館、ホール、西文化施設、東文化施設も整備していくと追加してもらいたい。</p>
福田委員	<p>指定管理者を導入する事への不安があります。行政は、指定管理者と連携しモニタリングを行う、とあるが、具体的にどういうメンバーで運営していくのかなどについて、詳しく説明をしてもらいたい。</p>
事務局	<p>そこに配置する職員の資質にも関係するが、モニタリングの詳細は今後調整していきます。あくまでもカルチャー化しては困る、市民ファーストでと話をしています。市民利用がそがれてしまうのは困ります。指定管理者が一方的に事業を決めて実施するのではなく、事業内容を提出してもらい、その事業内容に対するチェックを行い、勝手にできない、やらせないように体制を整えていきます。市が責任をもって確認作業はしていきます。</p>
伊藤会長	<p>指定管理者との間では協定書を交わすことになります。そのなかで、月次報告、年間事業計画書を出してもらい、事業計画書に沿って事業が行われているのか確認をしていきます。その中では、市民との協議、指定管理者と連携した事業も含まれている。アドバイスをしながら、進めていきたい。成果指標に対する意見をお願いします。</p>

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局	埼玉県の指標に対して、弱気といった意見もありますが。鑑賞、活動。アンケートでも鑑賞、活動した人の割合を取っている。同じ項目を取っているので、効果測定がしやすくなります。右肩上がりに、前年度対比5%を考えています。
伊藤会長	何を根拠に出していますか。
事務局	すべての文化事業への参加者数。来年度から指定管理者の目玉事業が入るので、どんどん増えていく想定です。
伊藤会長	1, 2はいいが、3は厳しいのではないかと思います。
事務局	2について、数という観点もあります。
伊藤会長	満足度を聞いているところもあります。あいまいですが。これらについて継続してできるのですか。
事務局	毎回アンケートはやっていますが、皆さん満足で出してくれます。先週のスポーツの会議でも満足度について話が出ています。評価指標を3, 5で取るかで変わってきます。
伊藤会長	満足度を入れたいが。
古田土委員	参加者があまりに少ない。
事務局	自由となると把握が難しくなるし、多目的となると、何人来ているのかわからなく把握ができません。
伊藤会長	何をもってのものなのかその根拠を小さくてもいいので入れた方がよいでしょう。
尾澤委員	つながるに関して、気になったところがあります。アーティスト同士がつながる、達成されているのであれば、厚みが出るのでしょうか。アーティスト同士がつながっていることについても触れてもらいたい。
伊藤会長	アーティスト同士、を入れるのも面白いかもしれない。基本方針2について。前回の4つの基本方針を3つにした際、内容が弱くなったのではないかという指摘がありました。このあたりについて意見をいただきたい。文化財を活用したアート事業だけでいいのか。小林委員、意見等ありましたらお願いします。

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
小林委員	食文化ワークショップ。これからますます環境が変わる中で、作物を作っていることを強く打ち出して、大切に作るだけではなく、育つ、育てることも重要です。
小林委員	生活の中で、もったいないの前後を活かすことになる。農家ではないが、作られているものに関わっていくことを打ち出すのはどうか。
事務局	生活文化は地域の活性化につながりますが、伝統文化の継承が上福岡七夕祭や大井祭だけで良いのか考えています。
伊藤会長	祭の内容をもう少し膨らませれば。広い意味に使えるかもしれません。
福田委員	保存することも大事。歴史は歴史として保存してまとめていく、これを表す文言はないですか。そのあたりを一つ加えていただけると、つながるの前に大事にしようという観点も必要ではないかと思います。
伊藤会長	成果指標について、ご意見をいただきたい。
事務局	成果指標の50件について説明します。1番目の50件は今日お配りしているアート発信発見の1号あたり6人掲載し、8号で48人になりました。最初の頃は6人ではなくもっと多くの方を載せていたので50件です。ただ単に情報を掲載するのではなく、その人の活動や思いなども入れ込み、市民目線で取材をして書いてきました。4年後は単純に80件になります。アートに限ることなく情報を載せてもいいのではないかと考えています。ご意見をいただきたい。
伊藤会長	施策の方向2には、様々なネットワーク、メディアの活用が入っています。紙媒体情報についてもここに加えて、増やしていくことが分かるように書いた方が良いでしょう。
事務局	市の協働推進課では、市の出身者の動画作成を進めています。ITやテレビ、データなどで皆さんに見ていただけるように進めていきます。
伊藤会長	80件の根拠を入れてください。連携について、民間団体の中には大学なども含めるのか、含めないのかという話にもなる。
尾澤委員	民間団体という言葉は、ボヤっとした印象があります。

発言者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	言い回しを検討していきます。
遠山委員	大学でも、社会とどのようにかかわっていくのが課題としてあります。ただ音楽をやるのではなく、それがどのように役立つのが課題です。イベントなどでやらせていただく中で、学生たちの中にも意識が生まれ、変わってきています。
尾澤委員	ユニークな取り組みの所、面白いことをやる人はいっぱいいます。ユニークに対する捉え方は人それぞれだと思います。
事務局	アート発信発見の趣旨として、アートスポットやアーティストのユニークな取り組みを市民編集員が伝えるということを行っています。ユニークというと何がユニークなのか整理し直します。
伊藤会長	基本方針3に進みます。
事務局	アート事業をやっていく中で、今までの時代は、時代で大切にしながら、変化していくことも必要なのではないかと考えています。その部分について、将来的には書いた方がいいのではないかと考えています。基本方針の3もしくは基本方針1に書き込むのも良いと思います。
進藤副会長	私がやりたいことは、音楽で世代を繋ぐこと。いろんな世代が一つのことにつながる、社会インフラなどを乗り越えつなげられるのが音楽です。これからの課題は、20代、30代の活動者がいないことです。そこに輪を作るには地道な活動が重要で、単なる募集をしても誰も来ません。地域活動を作ったところから持っていけないといけない。何かをすればつながるかもしれない。音楽家協会の会長は、市役所でコーラスをつくったらどうかと話していました。
小林委員	兵庫県内の自治体でコーラスに取り組んでいる市役所があるそうです。
進藤副会長	楽器は簡単ではないが、歌うというスキルは、容易に世代を繋ぐことができます。
古田土委員	中学生など参加した子どもたちに対してよく来たなって感じでした。杖をついて上がっていた方も歌声がしっかりしていて、感動しました。
進藤福会長	音楽だけではなく文化を担うことにもつながっていきます。

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
伊藤会長	世代を繋ぐ、年代の違う様々な人たち、多様な人たちが必要になって活動していく部分、あるいは、障がいのある人たちも含まれてくる基本方針3ですが、対象が子どもだけになっています。小・中学生も重要ですが、多様な世代についてもどこかに入れられるか見ています。施策の方向性2に多様な市民の部分でいれられたら良いと思います。
尾澤委員	子どもたちが文化芸術に、とありますが、文化芸術に詳しいシニアの方もいます。子どもたちを育てていくシニアの育成も必要なのではないのでしょうか。
事務局	47頁では、コーディネーター、サポーターという言葉を使っています。シニアの方の中には、コーディネーターとして活躍している人もいます。
尾澤委員	コーディネーターといわれると、特殊な能力を持った人というイメージがあります。そういう人も必要だと思いますが。
事務局	注をつけておきます。
進藤副会長	小学校では、ほうれん草名人がいて、私は素晴らしいと思っています。普通の、ほうれん草の農家だと思うのですが、普通の農家さんが子どもたちと一緒に食べたりすると、野菜をつくるどころまでイメージができます。
事務局	アートフェスタでは読み聞かせをしている団体の参加があり、そのなかに、80代で読み聞かせをしている方もいました。2点ほどどのように進めようか考えていることがあります。1点は、文化団体をまとめる団体が必要なのではないかと考えています。そして、地域で活躍している人たちが学校などでアウトリーチ活動を行い、今までの経験などを子どもたちに伝えてもらうことを考えている。以前から、話がありましたが、もう1点は、合併から18年が経ち、上福岡音頭、大井音頭はありますが、ふじみ野音頭をつくって来年のオープニングで披露できたらと思い、スタートを切りました。そしてできた音頭を舞踊家の皆さんが学校に行って子どもたちに教えてもらうことを考えています。それによって、上福岡や大井について学ぶ機会になったらと思っています。
伊藤会長	47頁の2、3は内容が重複しているので一緒にできるところは一緒にしてください。コーディネーターだけではなくいろいろな方が地域の文化を伝えるために協力できるような内容の文を入れてください。45頁のアウトリーチは課題の一つなの

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
古田土委員	<p>で、削って欲しくはないです。</p> <p>今までは、ふじみの市内の中だけで考えていましたが、地域文化としてのつながりを考えていった方が面白いのではないかと思います。実際にふじみ野市で活動しているなかでも近隣の人たちが来ている。図書館でもお互いに貸借ができたり、ごみの焼却も三芳町と一緒にやっています。近隣自治体は、同じ文化圏でのつながりを持ちます。同じように施設を借りられれば、広範囲のグループができやすくなるのではないのでしょうか。そうなれば、時間的制約なども少しでも解決できるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>お配りしたチラシのひとつに、ジャズコンサートがあります。ドラムの阿部さんは、三芳町で活躍している方です。ふじみ野市でも昨年からご協力いただいている一つの事例です。</p>
進藤副会長	<p>三芳町の吹奏楽部出身で吹奏楽をやりたい子どもたちが集まって活動しているので、人数がすごく集まっています。いろいろなところで活動しています。2～3年前にフェイスブックを通してつながりました。</p>
事務局	<p>近隣のアーティストとの協力体制はこれからも強力に推進していきたいと思います。</p>
伊藤会長	<p>近隣等も含めて、こういう計画を進めていくことをどこかに盛り込んでもいいのでは。また、コーディネーターなどを配置していこうという部分が明確になりました。これについても追加で意見等ありましたらいただきたい。第3章について。ワークショップでも意見がたくさん出ています。このあたり、基本方針、方向性の話をしたなかで、もう一度ここにもどり将来像について話をしたいと思います。第1期計画では、合併があったので未来に向けて一体感を作っていこうという形でまとめましたが、ふじみ野市の市民としての自覚は強くなっており、市民同士の協働、文化芸術を支え育んでいくという内容となっています。微修正等あったらお願いします。市民が協働して文化芸術を育んでいくことがポイントとなります。市民の主体性を次の基本的視点でもう少し強く出してもらいたいと個人的には思っています。</p>
事務局	<p>将来像について第1期計画では、合併したということもあり両市の文化や人との交流について重きを置きました。これからは将来を作っていく点が重要となります。市民の融合は若い人たちの中では進んでいて、基本的な視点は変えずに、市民の主体</p>

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
	<p>性では少し弱いですが、市民が持つ文化の力などを付け加えていきたいと思います。多様性でしたら、インクルーシブなまちづくりなどを足していきます。3つ目の参加は誰でも参加できます。様々な世代の人が参加できるよう環境を整えていくことが必要です。第1期計画では表現が弱かったが、今回の計画の中では深化させる形で記載しています。もう少し市民の主体性という部分を盛り込めればと思っています。</p>
遠山委員	<p>多様性の所、今の書き方で良いと思っています。あくまでも受ける側のことになるので、例えば文化芸術の創造に関わる、といった内容が加わってもいいのではないのでしょうか。現実的にはそちらの方が多いと思います。作る側ももっと積極的に関わっていきけるといいのではないのでしょうか。</p>
小林委員	<p>大井町、上福岡エリアでは、職場と住居だけの往復という人も多くいます。その人たちは住みやすくここを選んだとおっしゃるが、永遠に地域とのつながる距離は縮まらないと思います。その人たちの年齢が上がっても住み続けるのは変わらないと思います。先の5年20年を見据えていった時に自分の故郷になってもらえるといいですね。これからの時代、その人たちは増えていくはずで、その人たちに何か参加したい、広く、長く、ひとつになれたらいいと思います。</p>
伊藤会長	<p>重要な事ですね。ウィークデイに自宅で仕事をする人も増えているので、チャンスです。話題になっており、何かできないか。アイデンティティのコアになります。</p>
尾澤委員	<p>精神論ではなく、もう少し具体的にわかりやすく、例えばモニュメントを作るなど。心は見えないからわからない。ものとして、視覚的に見えるものが象徴としてあると割と意識がいつて良いと思います。そういうものがあっても良いと思いました。</p>
事務局	<p>将来像と文化施設について前回のご意見を踏まえて修正した箇所が赤字部分になります。視点の順番を、「魅力、多様性、参加」に変更しました。文化施設の管理運営についても加筆しています。この内容について修正等のご意見がありましたら、事務局にご連絡ください。</p>
伊藤会長	<p>それではこれで本日の会議を終了いたします。</p> <p style="text-align: center;">閉会</p>